

【第3回】

御影公民館及び清水消防署御影分遣所
建設基本構想策定

検討委員会資料

2026年8月24日

－検討委員会のスケジュール－

「御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会」では、下表のスケジュールで検討を進めることを想定しています。

開催時期		協議事項（案）
第1回	6月29日	御影地区・現況施設の概要
第2回	7月28日	御影地区の今後のまちづくりの方向性と施設のあり方
第3回	8月24日	施設の導入機能①（基本方針と配置場所）
第4回	9月	施設の導入機能②
住民説明会	10月上旬	基本構想の骨子
第5回	10月	基本構想案について
第6回	11月	基本計画① 施設の規模、配置計画など
住民説明会	12月	基本計画に向けて
第7回	12月	基本計画②

－事業スケジュール－

- 複合化施設の事業スケジュールは、以下を想定しながら進めます。

令和8年度

10月頃を目処

基本構想

10月頃から
スタート

基本計画

令和9年度

基本設計

令和10年度

実施設計

令和11年度

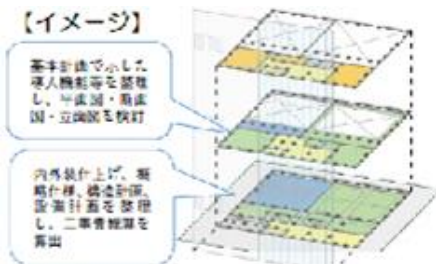
工事着工

基本構想

- 施設整備のコンセプト、概ねの導入機能、規模、候補地、配置イメージなどの基本的な考え方を整理します。

基本設計

- 基本計画を踏まえ、意匠を決定し、建築、構造、電気設備、機械設備等の基本設計を実施します



実施設計

- 施工を考えてデザインと技術面の両面にわたって詳細な設計を行うとともに工事費の具体的な積算を行います

1. 第2回検討委員会（7月28日）での意見のポイント

(1)意見のポイント

- 御影地区の良さである「人とのつながり」「暮らしやすさ」「ゆったりした環境」を大切にしながら、子育て世代や高齢者が気軽に使える施設にしたいという方向性が共有されました。
- 人口減少や財政負担を踏まえ、過大な施設ではなく、既存施設を活用しながら、消防・支所・多目的ホール・交流機能を中心に、子育て支援や多世代交流をどう組み込むかを今後検討していく。

(2)主な意見

- 意見交換では、子どもや高齢者が1人でも気軽に立ち寄れ、本や交流を通じて自然に多世代が関われる施設が望ましいという意見が出されました。また、現在の公民館大集会室では文化祭や、各種講演会、御影こども園の発表会など200人規模の行事が行われており、ステージや音響設備、展示スペースを備えた多目的ホール機能は必要であるとの意見がありました。
- 一方で、消防署と公民館を一体で整備する前提そのものについて、まだ十分に議論されていないのではないかという指摘もありました。また、改善センターや世代間交流センターを今後どう活用するのか、御影地区全体の公共施設のあり方を整理したうえで、複合施設の機能を考えるべきという意見が出されました。
- 大きな論点となったのは、複合施設の検討を急ぎ過ぎず、御影地区全体の将来像をもう少し時間をかけて議論すべきではないかという点です。人口減少が進む中で、施設を単に建て替えるのではなく、町内会や各団体が意見を持ち帰り、地域全体で話し合うプロセスが必要だという意見がありました。

- 子育て機能については、外部から大勢を呼び込む大型施設ではなく、御影に住む子育て世代が気軽に立ち寄り、子どもを遊ばせて短時間過ごせるような、御影らしいちょうどよい規模の居場所が望ましいという意見が出されました。あわせて、若い世代や子育て世代の間で、この施設建替の検討自体がまだ十分に知られていないため、周知や意見把握が必要であるとの指摘もありました。
- 施設規模や配置については、大集会室の広さは必要だが、会議室などは可動間仕切りで柔軟に使えるようにすべきという意見がありました。また、グラウンドや公民館前の広場は、スケート、花火大会、花見、祭り、盆踊りなど地域行事に欠かせないため、建設場所や建替方法を検討する際には、これらの屋外空間をできるだけ残すべきとの意見も出されました。
- 支所機能については、縮小すべきではなく、高齢者が役場本庁まで行かなくても手続きできるよう、最低限現在の窓口機能は維持すべきという意見がありました。また、子ども向け図書、週末に使える体育館的スペースなど、既存施設や学校施設との役割分担を踏まえて機能を考えるべきとの意見もありました。
- 御影地区の魅力については、移住者や子育て世代から、ゆったりした空間、人の温かさ、地域のつながり、清水・帯広へのアクセスの良さ、地域で子育てしてもらっている感覚などが挙げられました。こうした御影の良さを生かし、子育て世代の移住や定住を後押しする地域づくりにつなげるべきという方向性が共有されました。
- 今後の施設整備については、改善センターや世代間交流センターがまだ使えるのであれば、すべてを一度に新施設へ集約するのではなく、既存施設を改修しながら活用し、必要最小限の機能から整備する考え方も示されました。
- 一方で、公民館・消防署は耐震面や老朽化から建て替えが必要であり、既存施設との機能分担が次の重要な論点になると整理されました。
- 最後に、将来世代に過大な負担を残さないよう、できるだけコンパクトで費用を抑えた施設にすべきという意見が出されました。そのうえで、小規模でも子育て世代を支える場や、多世代がつながる仕組みをつくることは可能であり、ハード整備だけでなく、ソフト面の取り組みも合わせて検討する必要があると整理されました。

2. 御影地区の大切にしたい地域イメージ

ー御影地区のテーマー

人とのつながりとふれあいのある、暮らしやすいまち御影

①多世代が自然に交流できる地域

- 子ども、高齢者、子育て世代、地域団体が日常的に顔を合わせ、気軽に声をかけ合える地域。

②子育て世代を地域全体で支える地域

- 親だけで子育てを抱え込まず、地域の人が見守り、支え、子どもの成長に関われる地域。

③ゆったりと安心して暮らし続けられる地域

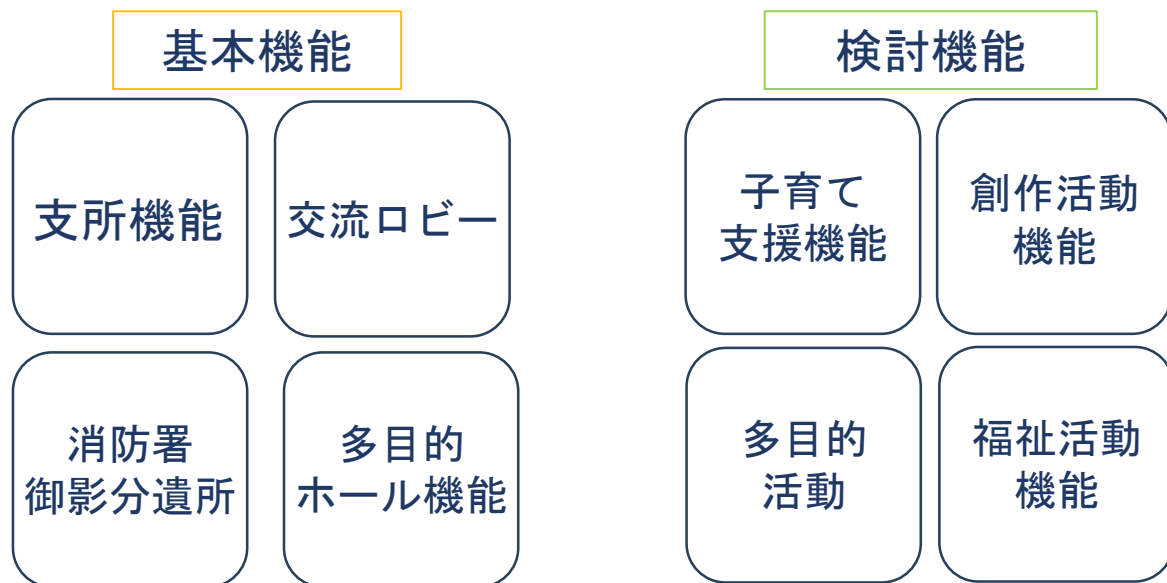
- 御影らしい空間のゆとり、人の温かさ、清水・帯広方面へのアクセスの良さを生かし、若い世代も高齢者も暮らし続けられる地域。

複合施設は、この方向性を支える地域の拠点と位置付けていきます

3. 導入機能

－御影地区で導入すべき機能－

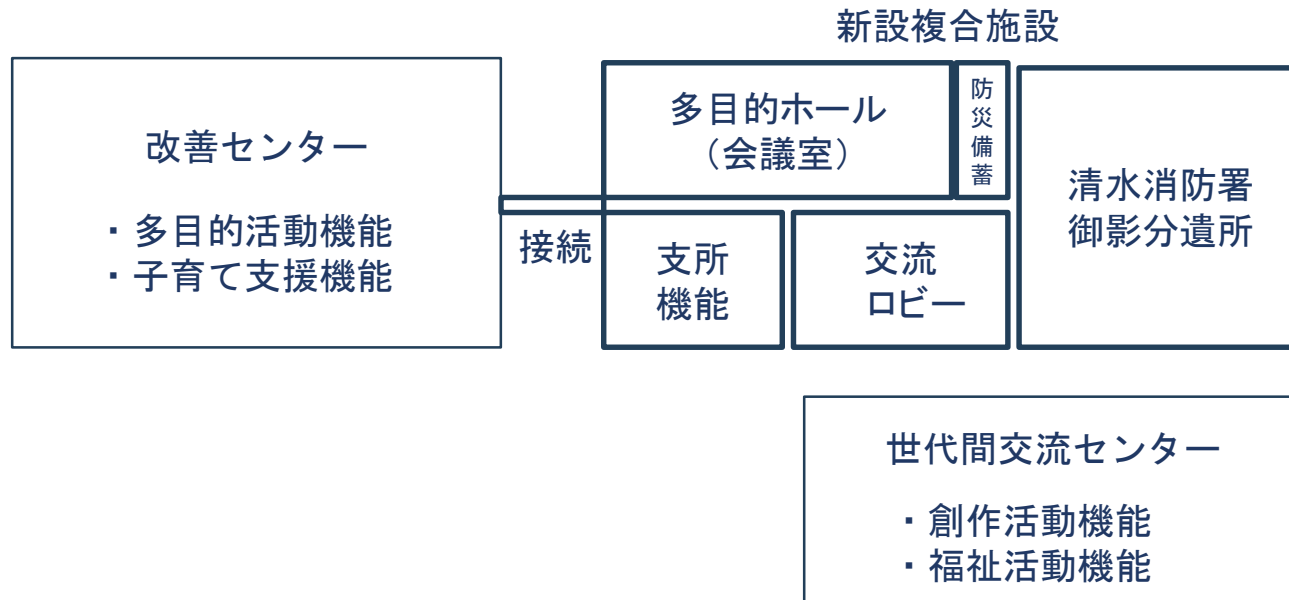
- 第1回、第2回での意見や、現状の利用状況などを考慮すると、複合施設の検討にあたり、検討すべき機能は下図が想定されます。
- 支所機能、消防機能、多目的ホール、交流ロビーなどの基本機能を確保します。
- そのほか子育て支援、創作活動、福祉活動、多目的活動などの機能を組み合わせて検討します。



4. 機能配置

ー基本機能を配置したケースー

- ・ 支所機能、多目的ホール機能、交流サロン機能、清水消防署御影分遺所を一体的に整備する。
- ・ 3～4人程度と想定される支所機能は60～75㎡程度を想定する。
- ・ 会議室は、改善センターを有効利用する。
- ・ 多目的ホールは、200人程度の収容を想定し180㎡～220㎡とし、間仕切りにより分割利用できるようにする。
- ・ 交流サロン・ロビーは、カフェ機能や子育てミニサロンなどができるように、90～120㎡程度を想定する。
- ・ 世代間交流センター、改善センターは、現状のままとする



5. 想定される面積(現段階・たたき台)

ー基本機能ー

- 基本となる4つの機能から想定される面積を整理しました。
- 多目的ホールを災害時の避難場所と位置付ける場合には、改善センター、世代間交流センター、学校の体育館など人数配分を検討し、その規模を検討することが必要です。
- 基本機能に加え、災害対応に防災備蓄庫も確保します。

機 能	面 積	想定される施設内容
支所機能	60～75㎡	3～4人の執務、窓口、待合、コピー・収納、簡易相談対応
多目的ホール機能	180～220㎡	200人程度の集まりに対応 間仕切りによって多様な活用ができるようにする
交流サロン機能	90～120㎡	カフェカウンター、テーブル席、待合、図書・展示、子ども連れの滞在
相談室・倉庫等	30～50㎡	支所相談、備品、会議室収納、カフェ備品等
防災備蓄庫	40～60㎡	200人分を想定。食料・水・毛布・簡易トイレ、段ボールベットなどの備蓄を想定
専有面積計	400～525㎡	主な機能のみ
共用・設備込みの建物面積	530～690㎡	廊下、トイレ、機械室等を加味

6.清水消防署御影分遣所

区 分	諸 室
庁 舎 内	《消防署》 正面玄関、職員用出入口、車庫(ホース収納装置) サイレン塔兼ホース乾燥施設(昇降式)、資器材庫、工具室、油庫 事務室(無線スペース含む)、応接室、食堂・厨房 兼 休憩室 玄関ホール、仮眠室(個室2室)、洗面・洗濯・乾燥室 シャワー室・脱衣室、更衣室、書庫兼物品庫、職員用防火衣ロッカー 《消防団》 消防団待機室、消防団物品庫、団員用更衣室兼被服等物品庫 女性団員用更衣室、団員用防火衣ロッカー、幹部室
そ の 他	電気室、機械室、階段室、廊下等スペース、男女トイレ
附属建物等	職員兼来客用駐車場、団員用駐車場、防火水槽、消火栓 非常用発電設備、備蓄倉庫兼資機材庫

要 求 室	必要面積		備 考	
《車庫内》				
車庫（オーバースライダー３面リモコン式）	306	m ²	8.5m(柱心)×12m×3面	清水庁舎と同等
ホース収納装置（車庫内）		m ²	車両間に設置	
サイレン塔兼ホース乾燥施設（昇降式）	12	m ²		
油庫	6	m ²		
工具室兼資機材庫	15	m ²		
職員防火衣ロッカー（御影勤務者+御影在住者）	10	m ²	6名分	
小 計	349	m ²		
《分遣所(消防署)関係》				
玄関・風除室	6	m ²		
事務所(無線スペース含む)	40	m ²		
応接室	18	m ²		
書庫兼物品庫	20	m ²		※清水庁舎約51m ²
トイレ（男女別）	12	m ²		
食堂・厨房・休憩室	20	m ²		※清水庁舎約50m ²
洗面・洗濯・乾燥・シャワー室	15	m ²		
仮眠室（個室２室）	18	m ²	9m ² ×2	
職員用更衣室	8	m ²		
物品庫	12	m ²		
機械室兼電気室兼発電機室	24	m ²		
職員用玄関・風除室	6	m ²		
小 計	199	m ²		
《消防団関係》				
団待機室	100	m ²		※現御影庁舎講堂と同程度
消防団幹部室	20	m ²		※清水庁舎約36m ²
調理室・給湯室（団待機室併設）	20	m ²		※清水庁舎約26m ²
消防団物品庫（団待機室併設）	25	m ²		
団員用防火衣ロッカー室	50	m ²	40名分	
団員更衣室兼被服等物品庫	20	m ²		
女性団員用更衣室	8	m ²		
小 計	243	m ²		
合 計 ー①	791	m ²		※清水庁舎約2,170m ²

要 求 室	必要面積		備 考	
備蓄倉庫兼資機材庫	60	m ²		
自家発用屋外タンク（少危）	6	m ²		
職員・来客用駐車場（5台分）	75	m ²	1台15m ² (2.5×6)	
駐車場（40台分）	600	m ²	訓練スペースとは別	
訓練スペース	3,200	m ²	80m×40m※清水庁舎と同等	
※ポンプ操法訓練を考慮すると舗装で長さ80m×40m程度必要				
※演習実施を考慮すると4800m ² （80m×60m）が必要				
40kl 級防火水槽		m ²		
消火栓				
合 計 - ②	3,941	m ²		
①+②（合計敷地面積）	4,732	m ²		※清水庁舎約9,800m ²

沼田町暮らしの安心センター

～参考～

- ・「医療」「福祉・子育て」「介護」の3つの要素を1ヵ所に集約した複合施設



